

安里哲好前沖縄県医師会長退任激励会

常任理事 玉城 研太郎



安里哲好前沖縄県医師会長退任激励会

日 時 令和6年8月22日(木) 19:00～
場 所 ザ・ナハテラス (アダン)

次 第

司 会 玉城研太郎常任理事

1. 開 会
2. 発起人代表挨拶 田名 毅 沖縄県医師会長
3. 功績紹介 平安 明 沖縄県医師会副会長
4. 来賓挨拶 玉城 デニー 沖縄県知事
自見 はなこ 参議院議員
内閣府特命担当大臣
5. 記念品・花束贈呈
6. 挨 拶 安里 哲好 前沖縄県医師会長
7. 乾 杯 玉城 信光 沖縄県医師会代議員会議長
8. 懇 談
9. 閉 会

令和6年8月22日(木)、ザ・ナハテラスにて前沖縄県医師会長安里哲好先生の退任激励会が執り行われました。

以下に沖縄県医師会長 田名毅先生の発起人代表挨拶を始め、功績紹介、来賓挨拶、安里哲好先生のご挨拶を紹介します。

■挨拶：田名毅沖縄県医師会長



本日ここに、前沖縄県医師会長 安里哲好先生の退任激励会を開催いたしましたところ、時節柄お忙しい中を多数ご参加賜り、厚く御礼申し上げます。

また、本日は、玉城デニー知事、自見はなこ内閣府特命担当大臣をはじめ、多数の方々にご出席賜り、皆さんと共に安里先生の労をねぎらっていただけますことに対し、衷心より感謝の意を表する次第であります。

安里先生のこれまでのご功績につきましては、後ほど詳しくご披露されますが、先生は平成12年に沖縄県医師会理事に就任して以来、常任理事と副会長を務められた後、平成28年には第37代目の沖縄県医師会会長に就任され、4期8年にわたり医師会長として、本県の医療界をリードしてこられました。

先生は、会長に就任されると同時に、「県民と共に歩む医師会」、「地域医療の更なる充実」、「魅力ある医師会」の三本柱を掲げ、対内・対外の活動において素晴らしい実績を挙げております。

中でも特筆すべき事項として「65歳未満健康・死亡率改善プロジェクト」を推進され、働き盛り世代をターゲットとした高血圧性関連疾患の予防対策に努められた他、「うりずんフェスタ」の開催等、健康長寿県復活に向けた各種事業の実施に尽力されました。

また、新型コロナウイルス感染症については、当初「未知のウイルス」と言われ難しい対応を迫られる中、医師会長としてリーダーシップを発揮され、その難局を乗り越えられました。安里先生のこれまでの長年のご労苦に対し改めて会員を代表して深甚なる敬意と謝意を表する次第であります。

さて、現在、地域医療構想や第8次医療計画に基づいた政策が進められると同時に、来る2040年を見据えた新しい構想の検討が開始されております。人口減少と少子高齢化に歯止めがかからない状況の中、わが国の社会保障システムを持続可能なものにし、質の高い医療提供体制を維持していくにあたっては、かかりつけ医機能の強化や在宅医療の充実、切れ目のない医療・介護連携の実施、医師の偏在対策等の課題が山積しております。

また、本県においては、救急医療のひっ迫が喫緊の課題となっております。この状況を鑑み、先日、本会にて救急病院の先生方との意見交換会を実施するとともに、県行政との意見交換も行い、医療ひっ迫の解消に向けて検討を重ねているところでございます。

いずれの課題につきましても、私共医師会の果たす役割は極めて重要であり、あるべき医療提供体制を実現するため、地区医師会並びに日本医師会、行政と更なる緊密な連携の下に対処して参りたいと存じます。

このようなことから、安里先生の長年のご経験、卓越したご見識によるご指導、ご助言が不可欠でございます。何卒、今後とも私ども後輩に対するご指導をお願い申し上げる次第であります。

終わりに臨み、これまで先生が健康で立派な実績をあげて来られたのも、側でにこやかに立っておられる朋子夫人の支えがあったからこそだと思います。朋子夫人にも改めて感謝申し上げますと共に、ご家族の今後ますますのご健勝とご多幸を祈念いたしまして、ご挨拶いたします。

■功績紹介：平安明沖縄県医師会副会長



平成28年6月より、4期8年にわたり本会の会長を務められた安里哲好先生が、去る6月20日付をもって退任されました。安里先生のこれまでのご功績について、今一度、その足跡を辿り、先生の長年のご労苦に対する謝意と敬意を表したいと思います。

安里先生は、平成12年から沖縄県医師会理事を2年間、常任理事を9年間、副会長を4年間務めた後、平成28年6月に会長に就任されました。以来「県民と共に歩む医師会」、「地域医療の更なる充実」、「魅力ある医師会」の三本柱を掲げ、会務を推進してこられました。

まず、「県民と共に歩む医師会」については、働き盛り世代の健康・死亡率改善を最重要課題に掲げ、「65歳未満健康・死亡率改善プロジェクト」を推進されました。特に、死亡率が最も高い高血圧性関連疾患の予防対策に注力され、適切な血圧を管理する職場・地域・健康な社会づくりの実現に尽力されました。

その1つの大きな成果として、ポピュレーションアプローチとして実施した「うりずんフェスタ」は、3千人を超える参加者があり、県内最大規模の健康イベントとなりました。

また、「地域医療の更なる充実」については、医師会として第8次医療計画の策定に積極的に関わると共に、超高齢社会を見据えた地域包括ケアシステム構築のための関連事業を進めてきました。加えて、琉球大学病院及び医学部の移転や公立沖縄北部医療センター設立に関しても関係者への支援を呼びかける等、積極的に関わってこられました。

「魅力ある医師会」については、勤務医や若手医師の入会促進を図るとともに、組織強化検討委員会やワーキンググループを設置するなど、具体的な取組を推進されました。

また、会長在任中、新型コロナウイルス感染症が発生して以降は、会内に対策本部会議を設置され、コロナに関する様々な情報や課題を把握し、適切な対策を検討するとともに、地区医師会や会員施設との連携にも尽力されました。さらに、感染対策等を県民に呼び掛けるための記者会見を計15回実施され情報発信に努められた他、「県広域ワクチンセンター」の運用や「発熱軽症者抗原検査センター」の開設ならびに県が設置したPCR検査センターや抗原検査センターの陽性登録者への問診業務等、コロナ対策事業の実施に多大なる貢献をされました。

更に、県医師会長という極めて多忙の中、沖縄県医療審議会委員、沖縄県保健医療福祉事業団等、県をはじめ関係諸団体の委員会委員を歴任され、その数は三十数種に及び、医師会のオピニオンリーダーとして各方面で活躍されました。特に、沖縄県医療審議会においては会長として、県下の医療提供体制の確保に尽力されております。

令和3年度は九州医師会連合会長に就任され、コロナ禍にあっても感染対策を取りながら、九州医師会総会・医学会や九州ブロック学校保健・学校医大会などの諸行事を成功裏におさめられました。

また、令和4年6月25日の日医会長選挙においては、九医連会長として全国に先がけ松本現会長の推薦を取りまとめ、松本会長誕生に貢献されました。

日本医師会においては代議員を14年間務めると共に、平成30年には理事に就任された他、生命倫理懇談会の副座長や会員の倫理・資質向上委員会委員を歴任される等、日本医師会の事業推進にも大きく貢献されております。

この様な中、令和3年には、県医師会長として本県の保健・医療・福祉の向上や、日本医師会並びに各都道府県医師会との連携強化に努められた功績が認められ、日本医師会最高優功賞受賞の栄に浴されております。

会長就任以来、常に県民医療並びに医師会員の学術・福祉・経営の向上のため一貫して公平・公正を旨に尽力された安里先生に対し、改めて深甚なる敬意と感謝の意を表する次第であります。

安里先生におかれましては、今後も益々ご健勝でご活躍されんことを祈念いたしまして、簡単ではございますが功績紹介を終わります。

■来賓挨拶：玉城デニー沖縄県知事



本日、前沖縄県医師会長安里哲好先生の退任激励会開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

皆さまご承知のとおり、安里哲好先生は平成28年から4期8年にわたり、沖縄県医師会長の大役を果たされました。先ほど田名会長、平安副会長からもお話がありました、医療における三本柱を掲げられ、働き盛り世代の健康・死亡率の改善や超高齢化社会を見据えた地域包括ケアシステムの構築、医師会組織の強化などに積極的に取り組んでこられました。

新型コロナウイルス感染症の発生以降は、医師会内に対策本部を立ち上げ様々な情報、課題を把握して対策を検討するとともに、県が設置

いたしましたPCR検査センター等の陽性登録者への問診業務を実施するなど、行政や産業界など各界と連携して本県の感染症対策に御尽力いただきました。そのことに関しましては、この新型コロナウイルスの経験をもとに、10年ぶりとなる県庁での改革を行い、介護施設等に医療の手が届きにくかった状況を改善し、保健医療部に老人福祉・高齢者福祉の介護部門を統合させて保健医療介護部に改めさせていただきました。安里先生をはじめ医師会の先生方が県民の命を守るために御尽力されたこと、行政としてもこれからまた新たな感染症対策等、高齢者福祉については医療と高齢者の密な連携が必要であると教えていただいたのも、安里前会長をはじめとする医師会の先生方の献身的な働きによるものであるということこそ是非皆様にお伝えしておきたいと思えます。

また、本年1月に発生した能登半島地震においては、被災地へ迅速にJMATを派遣するなど、さまざまな場面でそのご指導力を発揮され、沖縄県医師会をけん引されてこられました。

加えて、県医師会主催の研修医歓迎レセプションや県委託事業を通して臨床研修医の確保にも積極的に取り組まれました。これらの活動を通して本県の地域医療・保健・福祉の向上に多大な御尽力をされたことに深く敬意を表するものであります。

その他、沖縄県振興審議会委員として新・沖縄21世紀ビジョンをご検討いただいたほか、沖縄県医療審議会の会長として本県の医療提供体制の確保に関する重要事項をご審議いただき、大変貴重なご意見をいただきましたことにも改めて感謝を申し上げます。

安里先生におかれましては今後ともその高いご見識と豊かなご経験をいかされ、本県の保健医療行政の発展のためにお力添えを賜りますようよろしくお願いいたします。

結びに、安里哲好先生をはじめ、会員の皆様のご健勝とご活躍、田名毅新会長を中心とした沖縄県医師会の益々のご発展を祈念いたしまして挨拶のことばといたします。

■来賓挨拶：自見はなこ内閣府特命担当大臣



皆様こんばんは。大変お世話になっております。現在、沖縄担当大臣を拝命しております、参議院議員の自見はなこでございます。

本日は安里先生の退任激励会にお招きいただきまして誠にありがとうございます。田名会長を中心として大勢の皆様の発意によりましてこの激励会が開催されておりますこと、私の立場からも本当にありがたく思っております。

いま現在、沖縄担当大臣という大きな任に当たっておりますが、いつも安里先生からは「自分たちの大臣だから」という言葉をいただきながら、いつもお電話でも直接会った時にも励ましをいただいております。この場を借りて御礼を申し上げたいと思えます。

私は平成28年に当選させていただきましたが、その1年後に沖縄県医師会から政策課題をいただきました。それが、外国人観光客が訪れるようになった際の医療機関への負担ということからの課題をご提示いただき、台湾からのご夫婦が赤ちゃんを早産したということがあって、未収金の問題をどうするかというところからのスタートでありました。その課題を国会議員になったばかりの私に教えていただき、数カ月後に厚生労働省と観光庁の方と一緒に視察に来てから、私が自民党の中で会議を立ち上げ、それが外国人医療問題のPTの発端でありました。それを受けて日本医師会の中にも会内委員会を立ち上げていただき、ちょうど当時はオリ・パラが始まるという前提でありましたので、16億円をいただきまして、タブレットや医療通訳、あるいは未収金の問題、支払いの問題など様々なマニュアル作りなどを対応させていただきました。それも安里会長をはじめとした沖縄県の医師会の先生方からの具体的な要望があったからであります。

その後、私が厚生労働大臣政務官を拝命しまして、ダイヤモンドプリンセス号の初動の時、3週間船内で活動しておりましたけれども、その後の2020年の1月～9月まで、安里会長と緊密に連携を取りながら、国のコロナ対策と県のコロナ対策ということで悩みを共有させていただきながら、逼迫する状況の中で対応させていただきました。

当時、2020年の8月に、橋本岳副大臣（当時）がちょうど沖縄県の対策本部が立ち上がるタイミングで厚労省から派遣され、そこから本当に大変な宿泊療養の立ち上げや周産期を含めた医療提供体制、また当時は物資が無い中でアルコールをどうするかということから始まったその対策をすべて、大変なご負担だったと思いますが、県医師会長として安里先生は県政・県議会の皆さんと連携しながら対応してくださいました。そのことについては私ども厚生労働省の中におりましたが、沖縄の本当に大変な、一番大事なところを支えてくださったことに感謝しております。

本日は、対馬丸が沈没した日から80年でございます。その祈念式典で朝から対馬丸記念会へ寄せさせていただきました。どの時代であっても命は大切に、子どもたちが犠牲になるというのは他ならないことですが、それが沖縄の場合、現実になった。対馬丸事件をはじめとした沖縄の凄惨な地上戦を含めて歴史をしっかりと胸に刻んで、恒久平和のために働きをしないといけないと思っております。沖縄振興担当大臣という大きな役割をいただきましたが、やはり私は小児科医でありますので、命というのが私の大きなテーマでございます。命を大切にする政治、命を大切にする行政、命を大切にする私たちの活動を、これからも安里前会長のご指導を仰ぎながら、私たちはしっかりと邁進して参りたいと思っております。

最後になりますが、奥様どうぞこれからもご夫婦ともどもご健康に留意されて、私ども後進をお導きいただきたいと思います。まだまだ狭い世界でございますし、これからより一層お世話になるのかもしれないなとも思って

ございますが、いま娘のような気持ちでここに立っておりますが、心からのあふれんばかりの感謝を込めて、私からの挨拶とさせていただきます。本当に安里先生のおかげで、私もこの立場で沖縄のために何ができるかを考えさせていただききっかけをいつも与えてくださっております。本当に感謝を申し上げたいと思います。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

■挨拶：安里哲好前沖縄県医師会長



本日はお忙しい中、玉城デニー知事、自見はなこ沖縄担当大臣はじめ、多くの方々にご臨席いただき心より感謝申し上げます。また、本日の会を開いていただいた田名毅沖縄県医師会会長をはじめ、理事者の方々に感謝申し上げます。玉城知事におかれましては過分なご挨拶をいただきありがとうございます。

僭越ながらこの機会に玉城知事へお礼を二つ申し上げたいと思います。一つは北部医療センターへのGoサインを出していただいたことです。北部医療センターは2028年の開院にむけて着実に進んでいます。もう一つは4年近くコロナ禍で保健医療介護分野の行政の長として県民の命と健康を守るため先頭に立って御尽力いただいたことです。私は知事とともに何度も記者会見を致しましたが、マスコミを通じて県民へのアピールは強い熱意が伝わり、とても感動いたしました。ありがとうございました。

自見大臣におかれましては、お忙しい中、来賓のご挨拶をいただき感謝に堪えません。琉球大学病院・医学部移転、北部医療センター、軽減税率措置の継続等に加え、与那国島・竹富島視察や子どもたちとの交流、そして対馬丸慰霊祭へのご参列に対し深く感謝いたします。

毎週、沖縄の新聞に大臣のお姿が掲載されていますが、すてきなゆしウェアのアピールも感激しております。さすがおらが国の大臣、自見はなこ先生という感じです。

さて、私は2000年に金城進先生のご推薦で県医師会理事就任しました。24年近く県医師会活動に携わり、長きにわたりご指導いただきました歴代の会長、理事、会員の皆様、事務局、そして支えてくれた家内に心より感謝いたします。

思い出に残る医師会活動は、2004年に導入された新医師臨床研修制度です。地域医療の現場で充実した指導ができるように、指導医のためのワークショップや指導医のためのステップアップ講習会を開きました。それらの経験と現状を日医のシンポジウムで発表し、好評を得たのが記憶にあります。2009年に初期研修医139人を迎え、第1回歓迎レセプションを盛大に開催したことは、全国初の試みだと思います。今年も146人の研修医で、92人が県外から来られています。

地域医療と産業保健ですが、脳卒中医療連携を全県下に進めました。それと並行して全国のIT医療連携は衰退している中で、沖縄県はIT医療連携（別名：おきなわ津梁ネットワーク）を積極的に展開しています。北部医療圏で北部医療センターとすべての医療機関がITで繋がればと思っています。それを全県下へと発展させ、そのような時代の要望はすぐそこまで来ていると思います。

副会長の時、健康長寿凋落の現状を分析し、その要因は働き盛り世代の健康状態・死亡率が大きな問題であることがわかり、その対策を立

てました。地域保健、産業保健、子どもを通じての親の健康管理などの戦略を検討しました。

2016年、会長就任時に働き盛り世代の健康・死亡率改善を大きな課題として進んできました。これは道半ばでございます。田名会長、どうぞよろしくお願いいたします。

4期8年医師会長を務めました。後半の2期3年半は新型コロナウイルス感染症対策に終始しました。昨年5月、5類になるまで58万人余の県民が感染し、致死率は0.17%と全国よりかなり低い値でした。会員、県市町村行政、医療・介護従事者、マスメディアや県民の協力のおかげでどうにか無事乗り越えることができました。改めて心より感謝申し上げます。

一方、医政活動に関しましては、県医師会理事に就任した折、県医師連盟常任理事を兼任ということでした。政治との関わりについて中部の桑江朝彦先生に相談しました。桑江先生がおっしゃるには、現場での医療の諸問題を吸い上げて医療政策に提案し、それを実現するのが医政活動ですとおっしゃっていました。私は理解したような、十分に理解していないような感じでした。中部地区医師会長を2期4年務めた時、中部地区の県議会議員候補者全員と意見交換をし、協定書、推薦書、為書き等の交換をし、お一人30分以上でしたので、2～3日近くかかったように記憶しています。とても勉強になり、政治家との距離もぐっと縮まりました。



一生懸命応援しました。それから年月が過ぎ、県医師連盟委員長に就任し、市長選挙、知事選挙、国政選挙等に関わるようになりました。

終わりに、新しい風が吹き、世代交代の到来が望まれ、それが実現しました。沖縄県においては地理的背景も含め、保健・医療・介護領域はまだ多くの課題が山積しております。田名会長を中心に新執行部がスクラムを組んで、県民の健康と命を守るため邁進していただくようご期待申し上げます。

また、ご臨席の皆様に新執行部への支援をお願いするとともに、皆様の御健勝を祈念しましてお礼のことばいたします。本日は誠にありがとうございました。

その後の懇談では、これまで親交の深かった県行政、経済界、政治家、そして会員の先生方が多く集まり和やかな雰囲気の中で、思い出話や今後の展望などについて話が弾み、会は盛況のうちに終了した。



印象記

常任理事 玉城 研太郎

安里先生は2020年より始まった新型コロナウイルスとの戦いでは、連日のようにメディアにご出演になり県民への情報発信に尽力され、また各地区医師会との連携、県行政との連携により何度も何度もやってくる大きな困難を乗り越えてまいりました。

また安里先生が特に力を入れられておりました「65歳未満の働き盛り世代の死亡率改善プロジェクト」では、わたくしも委員の末席に据えさせて頂き、企業介入プロジェクトなどに参加をさせて頂きました。

また本年2月に約5年ぶりに開催をしました「うりずんフェスタ」では、糸数保健医療部長（当時）、女優の田中律子さん、お笑い芸人のやついいちろうさんと一緒にシンポジウムを開催し、多くの県民の皆様に“心に刺さる”発信ができたのではないかと考えております。

先日開催された安里哲好先生激励会には多くの皆様にお集まりいただき大変盛り上がった会となりました。安里先生引き続きご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。